

加配による研修コーディネーターの役割とその活用について

調査の概要

◆課題認識

- ・初任者を中心とする若手教員の育成
- ・ミドルリーダーの育成
- ・校内における人材育成システムの構築

◆調査研究の目的

- ・研修コーディネーターを活用した取組を通して、初任者を中心とする校内における人材育成の在り方を研究する。

◆調査研究の方法

- ・調査研究協力校4校に対して、加配による研修コーディネーター1名を配置し、組織的に指導する体制下で自発的、継続的な研修が実施されるようにメンター方式の研修等を行う。

◆調査研究校

- ・群馬県高崎市立  
小学校12校、中学校4校、計16校

◆現状

- ・市内学校数：小学校58校、中学校25校
- ・初任者：51名  
(小・中学校に在籍、平成30年4月現在)
- ・初任での学級担任：45名(初任者の88%)
- ・研修の特色と高崎市内の実施率  
メンターチームを含むチーム支援  
実施している学校 89%

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①研修コーディネーターを活用した協働的な体制を学校全体で確立
- ②校長の経営方針を踏まえた研修
- ③チームのニーズに合わせた必要感のある研修
- ④ミドルリーダーの育成
- ⑤学校間連携により広く情報を共有できる研修

【H30年度作成・配布  
新しくメンターチーム制を始める学校向けのリーフレット(実践編)】



◆成果

- ・研修コーディネーターが校長の経営方針とチームのニーズの視点から研修計画を立てたことで、各学校が一年間の見通しをもち、時期に応じたタイムリーな研修を行い、初任者や経験年数の浅い教員が安心して児童・生徒に向き合うことができた。
- ・校内の教職員が研修の講師となることで、コミュニケーションが広がり、温かな人間関係の中でそれぞれの立場から自己を成長させることができた。
- ・各研修コーディネーターが配置されている学校グループにおいて、同じテーマで合同研修会を行ったことで、学校を超えて互いの研修を自校に取り入れようと意欲をもつことができた。

今後の課題

◆「チーム支援方式による初任者研修」の支援

- ・研修コーディネーターが配置されない場合の校内における支援体制の継続、研修の維持をする。
- ・3年間の文科省の指定事業の成果を生かした支援方式を、初任者研修の指導方法として位置付けて実施し、更なる成果をあげる。